

誇りと自負を持って



代表取締役社長 **北垣 一郎**

2006年12月に技報を復刊してから2年、前号に負けず劣らずの充実した内容でVOL4号を発刊する運びとなりましたことを、関係者にまずは深謝したいと思います。

私は、社長就任直後の業界紙インタビューで「御社の強みは何ですか」との質問に対して、「部門間の連携力」と共に、敢えて「技術力」を挙げました。土木のなかでも橋梁技術にはひときわ高い専門性が要求されることは言うまでもありませんが、その橋梁技術に於いて当社が定評を得ていることに手ごたえを感じているからに他なりません。

ところで、ある米国の経営学者が、優良企業に共通している特徴の一つとして、「社員にカネでは計れない動機づけが存在し、これが企業内に活力を生み出している」という意味のことを挙げていました。ハルテックの社員にとっての「カネでは計れない動機づけ」とは一体何でしょうか？

私は「橋梁技術への誇りと自負」だと思います。我々は「我々の技術が日本のインフラを支えているのだ」という誇りを持ってしかるべきです。そして「人に感動を与える美しい橋を造れるのだ」という自負を持って良いのではないのでしょうか。人がバッハの曲を聴くたびに酔いしれるように、人がフェルメールの絵を観るたびに感嘆するように、美しい橋は、観るたびにそして渡るたびに、人に感動をもたらすことができます。

残念ながら、我々の業界はこのところ元気がありません。鋼橋の発注量は減少しつつあり、競争は年々激化しております。この競争に生き残るためにも、当社は技術力を更に高めてゆかなければなりません。技術者諸君のますますの研鑽を心から期待しております。